

# Bellmark Shimbun

## ベルマーク新聞 6月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## 黄色い回収箱が思いをつなぐ

### 🚧 回収始めて12年、キリンビバレッジが箱提供



①キリンビバレッジ本社に集まった関係者。中央の亚克力箱のベルマークは、今回の寄贈の一部 ②店頭で設置している回収箱 ③初山俊也・PPIH 上席執行役員(右)と福島範彰・ベルマーク財団専務理事

「アピタ」「ピアゴ」や「ドン・キホーテ」などの店頭で実施された回収活動やキャンペーンで集まった約177万点のベルマークが5月27日、財団に寄贈されました。

回収活動は、スーパー「アピタ」「ピアゴ」などの131店舗、「ドン・キホーテ」「MEGA ドン・キホーテ」などの186店舗に回収箱を設置し、昨年度実施したキャンペーンの期間を中心に、お客さんや従業員からベルマークを集めました。いずれも、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス(本社・東京都渋谷区、吉田直樹社長、以下PPIH)のグループ店舗です。

回収活動は「ベルマークを集めて未来を生きる子どもたちを応援しよう!」をスローガンに東日本大震災直後の2012

年度、被災地支援の一環としてPPIHグループのユニーが始めました。次第に対象店舗が増え、PPIHグループ全体で取り組むようになりました。店頭で使うポスターやオリジナル回収箱は、協賛会社のキリンビバレッジ(ベルマーク番号54)がキャンペーン開始当初から提供しています。これまでの寄贈点数は累計で1500万点以上に達します。

贈呈式に参加したのは、PPIH、キリンビバレッジの関係者10人余り。キリンビバレッジ本社で、ベルマーク約177万点分の目録が初山俊也・PPIH 上席執行役員国内事業共同 CMO から、福島範彰・ベルマーク財団専務理事に手渡されました。

意見交換の場では、佐藤哲彦・キリ

ンビバレッジ常務執行役員営業本部長が「子どもたちの笑顔のために続けていきたい」とあいさつ。今の若年層はSDGsを学校で学び、環境や社会貢献を重視するエシカル消費への関心が高いといわれます。ドン・キホーテは20～30代のお客さんが多く、初山・PPIH 上席執行役員は「若い人たちにとって、こんな簡単な社会貢献への参加方法はない」と回収活動の意義を語りました。

◇

5月8日に開かれたのは、PPIHと同じようにキリンビバレッジの協力でマークを集めた北辰商事(本社・さいたま市、太田順康社長)の寄贈式。ディスカウントスーパーのロジャースを展開する同社は、地域に連携した企業をめざした取り

組みの一つとして、2021年10月から各店で収集活動を始め、この日、マーク約23万点を財団に寄贈しました。

太田社長が財団の福島専務理事に目録を手渡し、財団から感謝状を贈りました。式にはキリンビバレッジの内山宏夫首都圏流通支社長らも参加しました。

店舗では、回収箱に入りきらないほどのマークをビニール袋に入れて持参するお客さまもいるそうです。

回収活動は  
これからも続きます!!



## 小規模校ならではの遠隔合同授業に

### 🚧 鹿児島・徳之島町立母間小から感謝メッセージ

昨年度、財団が支援したへき地学校のひとつ、鹿児島県の徳之島町立母間小学校(山本克久校長、児童40人)から感謝メッセージが届きました。同校が希望したのは液晶テレビやポータブルCDシステム、手動鉛筆削りです。

児童数が少ないことから、3・4年と5・6年は複式学級です。小規模校ならではの取り組みとして、ICT機器を活用した遠隔合同授業に力を入れています。昨年度は、小規模校5校を同時につないだ授業を行ったそうです。「他校の児童と話すことで、多様な意見に触れることができました」と昨年度の教頭、山下一洋先生は話

してくれました。今回寄贈した液晶テレビも、そのような授業に役立っているといいます。

鹿児島県の南西にある奄美群島の大きな島5つのうち、ほぼ中央に位置するのが徳之島。鹿児島空港から飛行機で約1時間の距離です。徳之島でしか見られない動植物が多く分布していることから、島全体が、奄美大島などととも世界自然遺産に登録されています。

主な産業は暖かな気候を生かした農業。さとうきびの生産が盛んで、母間小のある徳之島町内にも製糖工場があり、子どもたちの遠足の行き先になっています。



液晶テレビを仲良く使ってくれている